

# 地才 地創

シンポジウム



## 「恐竜化石とこれからの地域づくり」

～地才地創シンポジウム IN 丹波～

深い緑と土の薫りに包まれた美しい田園風景が広がる丹波地域。自然豊かなこの地で2006年、国内最大級の恐竜化石が見つかり、今も発掘調査が続けられています。35億年前、ほんの小さなDNAとして始まった生物が、やがて恐竜を生み出し、現在のような多様な生態系を形成しました。本シンポジウムでは、こうした生命のつながり、地球の営みという観点から恐竜化石の魅力に迫り、恐竜化石を地域活性化に生かしていく方策について意見を交わします。

とき

2010年 **12月4日(土)**

13:00～16:30 (開場12:30)

入場  
無料

定員  
350人

ところ

**丹波市立やまなみホール**

(丹波市山南町谷川1110)

日英同時通訳



枝廣 淳子(えだひろ・じゆんこ)

東京大大学院教育心理学専攻修士課程修了。2年間の米国生活をきっかけに29才から英語の勉強を始め、アル・ゴア元米国副大統領の著書「不都合な真実」の翻訳を手掛けるなど、環境ジャーナリスト・翻訳者として幅広く活躍。(有) イーズ代表、環境NGOジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)代表などを務める。



岩槻 邦男(いわつき・くにお)

京都大理学部、同大学院で植物分類学を学び、同大理学部教授、東京大理学部教授、同大付属植物園園長などを経て現職。(社)日本植物学会会長、日本学術会議会員、ユネスコ国内委員などを歴任。自然環境保全についても問題提起を行い、日本人の自然観に基づく地球の持続性の確立に向けて積極的に発言している。

### ■基調トーク 「太古から未来へ ～伝え、守る多様な生命～」

枝廣 淳子(環境ジャーナリスト) × 岩槻 邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長)

### ■特別講演 「恐竜時代へ開かれた窓 ～モンゴル、ゴビ砂漠～」

ヒシグジャブ・ツォクトバートル(モンゴル科学アカデミー古生物学センター研究員)

### ■パネルディスカッション

#### 「恐竜化石とこれからの地域づくり」



パネリスト 酒井 達哉 (篠山市立大山小学校教諭、兵庫県生物学会理事)  
 村上 茂 (丹波市上下地域づくりセンター長、丹波電化石発見者)  
 廣瀬 浩司 (天草市立御所浦白亜紀資料館学芸員)  
 先山 徹 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授)  
 佐藤友美子 (サントリー文化財団上席研究フェロー)

コーディネーター 梶山 卓司 (神戸新聞社論説委員長) (敬称略、順不同)

#### 応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望人数を書き、〒650-8571 (住所不要) 神戸新聞社営業局業務推進部「地才地創シンポジウム」係へ。ファクス(078-361-7802)、Eメール(ad-gyomu@kobe-np.co.jp)でも受け付け。締め切りは11月26日(金)必着。応募多数の場合は抽選。当選発表は聴講券の発送をもって代えさせていただきます。

問い合わせ：地才地創シンポジウム係 ☎078-362-7077 (平日9:30～17:30)

※当日は丹波電化石工房のリニューアルオープンや食べ物屋台、物産販売などのイベントも予定しています。

#### アクセス

